

1 あいち産業労働ビジョン 2016－2020 追補版の概要

1－1 見直しの背景

- 「あいち産業労働ビジョン 2016-2020」（以下、「ビジョン」という。）は、2020年を目標年次とし、それまでの5年度間に取り組むべき産業労働施策の基本的な方向性と、主な具体的施策を示す計画として、2015年12月に策定した。
- 本県の製造品出荷額等は、圧倒的なモノづくりの集積を活かし、昭和52年以来、40年連続全国1位を続けている一方で、ビジョン策定以降、本県産業を取り巻く社会経済情勢に次のような大きな変化が生じている。
 - * 中小・小規模企業にとって未だ景気回復の実感がない中、経営者の高齢化、休廃業の増加、生産性の向上への対応など、新たな課題が生じている。
 - * IoT、AIを始めとする先端情報技術の加速度的な進展の中で、様々な産業分野における革新的なイノベーション、新たなビジネスモデルの誕生により、付加価値の源泉が移動する懸念が生じている。
 - * 本県の基幹産業である自動車産業において、内燃機関の電動化や自動運転など、「CASE」と呼ばれる潮流により、「100年に一度」の大きな変革期を迎えている。
 - * 生産年齢人口、年少人口の減少を背景に、全業種にわたり人手不足が深刻化し、人材確保・育成・定着が喫緊の経営課題となっている。
- このような社会経済情勢の変化に伴う、新たな政策課題が顕在化しており、それらに適時適切に対応するための方向性を示し、新たな施策を展開していくことが必要である。

1－2 見直すべき施策の方向性

- 幅広い業種、厚い産業集積をベースとし、引き続き中小・小規模企業への取組を着実に実施するとともに、生産性向上、事業承継、販路拡大支援などに向けて、さらなる企業力の強化が重要となっている。
- モノづくり現場におけるリアルデータの蓄積や技術・技能を持つ人材の集積などを基盤とした、IoT、AIなどの活用による発展の伸びしろを活かし、新たな付加価値を継続的に創出する起業、オープン・イノベーションを進展させることが必要とされている。
- 国は、第4次産業革命による「Society5.0」の実現を政府目標に位置づけており、その実現に向けた産業・社会生活への先端技術の取込が鍵となっている。

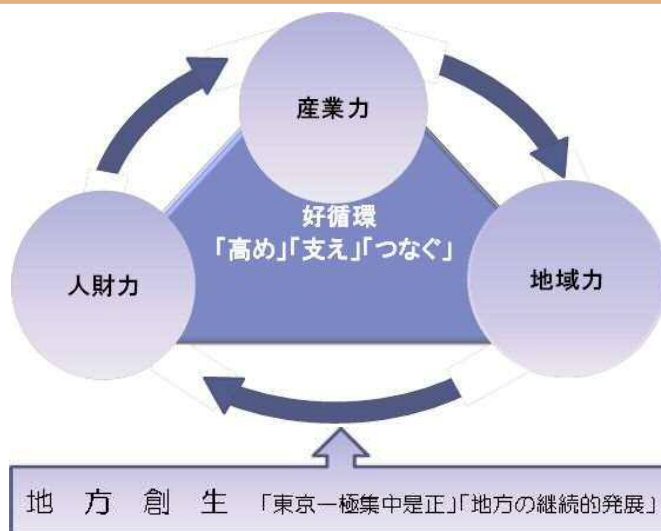
- 少子高齢化の進展に伴う労働力人口の減少が見込まれる中で、労働力の確保や生産性の向上を図っていくためには、経済団体や労働団体等と一体となった、長時間労働の是正など働き方改革の推進はもとより、女性・高齢者・障害者・外国人など、多様な人材の育成・活躍が求められている。

1-3 見直し後のビジョンの枠組み

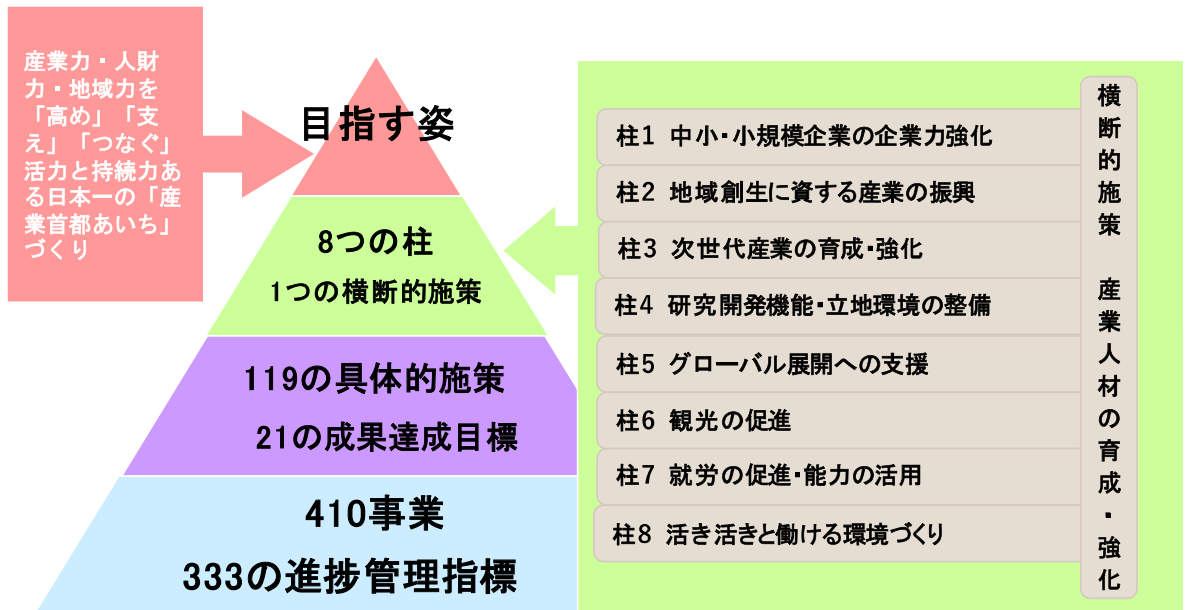
- 本県施策全体におけるビジョンの位置づけ、目指すべき姿、計画の推進体制、施策の柱立てなど、基本的な考え方は踏襲しつつ、外部有識者会議や地域における産業界、労働組合、行政機関などで構成する地域会議での意見を踏まえ、社会経済状況の変化に対応するために必要な施策を、「あいち産業労働ビジョン2016-2020 追補版」（以下、「追補版」という。）として策定する。
- 追補版では、現行ビジョンの8つの施策の柱+1つの横断的な施策に加えて、スタートアップを起爆剤とするイノベーション誘発の土壌形成を進めるとともに、生産性の向上、働きやすい労働環境の整備に取り組み、全ての産業の更なる育成・集積に向けた先導的な施策を推進し、地域経済の活性化を図るため、「新たな横断的な施策」として、「イノベーションの促進・生産性の向上」を設定する。
- 現行の8つの施策の柱+1つの横断的な施策について、ビジョン策定後に実施した事業、あるいは必要となった新たな事業を位置づけたうえで、既存事業と併せて進捗管理し、PDCA サイクルを回していく。
- ビジョンと追補版が一体となって、本県の目指すべき姿である、産業力・人財力・地域力の「好循環」により、日本一ビジネスがしやすく、働きやすく、暮らしやすい環境をつくり、活力にあふれ、サステイナブル（持続可能）な地域の実現を目指す。

【目指すべき姿】

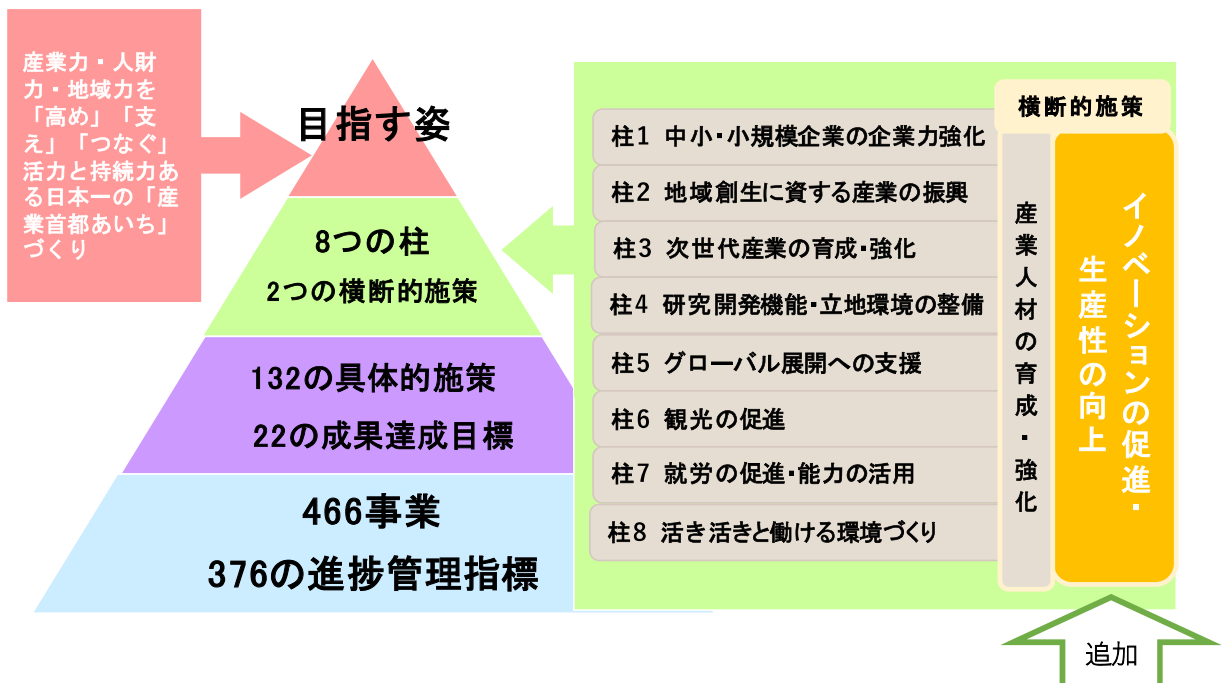
産業力・人財力・地域力を「高め」「支え」「つなぐ」
活力と持続力ある日本一の「産業首都あいち」づくり



【現行の施策の体系図】



【見直し後の施策の体系図】



2 主な施策

新たな横断的な施策 イノベーションの促進・生産性の向上

◆成果達成目標

スタートアップの本格的市場参入、海外への本格的事業展開、県内への本格的事業展開の支援 各10件以上/年度

【スタートアップを起爆剤としたオープン・イノベーションの推進】

○スタートアップ・エコシステムの形成

- ・地域のイノベーションの誘発を目的とした、スタートアップ創出・誘致を柱とする地域総合戦略を策定するとともに、「Aichi-Startup 推進ネットワーク会議」において、地域の関係機関と連携・調整し、スタートアップ・エコシステムの拠点形成を図るプロジェクトを推進する。

Aichi-Startup 推進ネットワーク会議の開催件数 1回/年度

※枠内には進捗管理指標を記載。

- ・スタートアップ支援拠点づくりを中心とするスタートアップ関連施策のあり方を検討する。
- ・海外スタートアップ・エコシステム先進地の研究機関の協力を得て、スタートアップ支援に係る強力なネットワーク等を活用し、本県スタートアップ及びスタートアップ支援機関の育成プログラムを実施する。

支援スタートアップの事業連携・出資獲得数 3件/年度



Aichi-Startup 戦略発表会

○愛知発スタートアップの発掘・輩出・育成の支援

- ・「あいちスタートアップキャンプ」等の実施により、従来にない新しいアイデアを持った人材や、新しいアイデアを生み出したい人材を発掘し、起業家への養成を支援する。

スタートアップキャンプへの参加者 30人/年度

- ・国家戦略特区を活用し、本県で創業を志す外国人の創業活動を促進する。

外国人創業活動確認証明書の交付件数 50件（2020年度までに）

- ・創業時の経済的な負担等を軽減し、愛知発スタートアップの創出を支援する。

支援事業を通じた創業件数 20件/年度

○国内外・東京のスタートアップの誘引やモノづくり企業とのマッチングの基盤づくり

- ・スタートアップ支援に精通したコーディネータの配置や交流イベント等の実施により、スタートアップと県内企業のマッチングを支援する。

コーディネータによるマッチング実施件数 50件/年度

・海外スタートアップの持つIoT、AI等の先進的な技術やビジネスモデルと、県内企業のニーズとのビジネスマッチングを図るため、本県への海外スタートアップの招へいに向けた取組を推進する。

○オープン・イノベーションを触発する次期研究プロジェクトの立ち上げ

・知の拠点あいち等において、オープン・イノベーションに立脚した研究プロジェクトを組成し、研究開発、実証実験を推進する。[柱 新横断・④に記載]

重点研究プロジェクトの成果活用・実用化件数 30件(2020年度までに)

【イノベーションを通じた新しいビジネスモデルの創出、生産性の向上】

○革新的技術を活用するスタートアップの成長支援

・IoT、AI等革新的な技術を有するスタートアップを対象に、メンターによる短期集中支援及びモノづくり企業等とのマッチング等を行うアクセラレータープログラムを実施する。

支援スタートアップの事業連携・出資獲得数 3件/年度

○イノベーションを通じた新しいビジネスモデルの創出支援

・独自の新技术・新商品開発やビジネスモデルの構築に取り組む支援の受け皿として、試作から量産までを一気通貫で支援するネットワーク構築を支援する。

ネットワークを活用した製品等の製作件数 50件/年度

○IoTの産業現場での開発・導入促進、人材育成の推進

・「愛知県IoT推進ラボ」における相談対応及び、先進的プロジェクト組成等により、県内中小企業のIoT導入・活用を支援する。

ITスキル向上研修等参加者数 100人/年度

・主に製造現場におけるIoT技術者を育成するため、IT、ICTシステムを構築するスキル習得に向けた研修会を実施する。[柱 新横断・⑨に記載]

IoT導入・人材育成支援講座参加者数 15人/年度

横断的な施策 産業人材の育成・強化

◆成果達成目標

技能検定合格者数：(2012～2014 年度平均) 7,800 人※ → 8,500 人/年度

※愛知県実施の技能検定合格者数。2015 年度から民間実施となった「機械保全」職種を除く。

【高度なモノづくりに向けた人材の育成支援】

○モノづくり基盤強化に向けた人材育成の強化

- ・機体構造組立技能者の技能検定制度の新設に向けて、関係省庁によるワーキンググループ等に参画し、検討を実施する。[柱③・⑨に記載]

○県立高等技術専門校の充実

- ・県立高等技術専門校において、IoT など産業界のニーズを踏まえた訓練コース・カリキュラムを設定し、モノづくり人材を育成する。

普通課程の普通職業訓練修了者の就職率 95%/年度

○ビジネス環境の変化に対応する人材の育成（グローバル・科学技術・ICT など）

- ・主に製造現場における IoT 技術者を育成するため、IT、ICT システムを構築するスキル習得に向けた研修会を実施する。[柱 新横断・⑨に記載]

IoT 導入・人材育成支援講座参加者数 15 人/年度

- ・テキサス州で毎年 3 月に開催される複合イベント「サウス・バイ・サウスウエスト」における IT 系を中心とした見本市への出展のため、県内学生・研究者チームの派遣を実施する。

県内学生・研究者チームの応募件数 10 件/年度

○若手技能者の育成支援

- ・2023 年開催の「技能五輪国際大会」の招致活動を実施する。

2023 年技能五輪国際大会の招致



2023 年技能五輪国際大会招致 PR

【中小・小規模企業の人材育成・能力開発支援】

○企業 OB 人材の活用

- ・企業 OB 等の熟練技能者を「あいち技能伝承バンク」に登録し、県内の工業高校や中小企業等へ外国人技能実習生を含む若年者の実技指導を行う講師として派遣・紹介する。

伝承士派遣先事業所・学校等数 35 か所/年度

